

2020 年度 出張授業のご提案

1	担当教員	石床 渉 元一般社団法人小豆島観光協会事務局長 せとうち観光専門職短期大学 准教授
	授業テーマ	「観る」観光から「感じる」観光へ ～瀬戸内の宝を見つけ、発信しよう～
	授業概要	本授業では生徒自らが地域の素晴らしさに気づき、伝えることの大切さを学ぶ。 近年の瀬戸内エリアにおいて自然、産業、文化などの分野から実際にパワースポットやインスタ映えする観光素材になった事例を挙げ、なぜ観光地として注目を集めるようになったのかその経緯を理解する。 授業の後半はグループワークをおこない、私たちの身近にあり観光の素材になりそうなものを生徒同士で話し合い発表する。 狙いは新しい観光素材を発掘する観察力とプレゼンテーション能力の向上である。

2	担当教員	石床 渉 元一般社団法人小豆島観光協会事務局長 せとうち観光専門職短期大学 准教授
	授業テーマ	うどん県の国際化 ～英語が話せなくてもできる国際化とは～
	授業概要	本授業では国際化が地域にもたらす活性効果を学ぶ。 インバウンド客の動向調査資料をもとに行政がおこなう施策と地元受け入れ態勢のギャップを分かりやすく説明する。 日本人の常識と海外旅行客の常識を比較し、ダイバーシティとは何かを考え、今後の国際化における重要なポイントを見出だす。 香川県内の地元住民によるインバウンド客の受け入れ活動などの事例をもとに、国際化の本質とは何かを生徒と一緒に考える。

3	担当教員	石床 渉 元一般社団法人小豆島観光協会事務局長 せとうち観光専門職短期大学 准教授
	授業テーマ	地方発 一流ホテルマンへの道
	授業概要	本授業ではホテルで仕事をするうえで大切なホスピタリティとは何かを考え、ホテルの現場で必要な人材像を模索する。 地方出身者が国内外のホテルで仕事に就き、お客様から感謝されることでやりがいを見出すまでの経緯を自身の経験をもとに分かりやすく説明する。 仕事とは何か、なぜ仕事をするのか、その意味を問う。これらを踏まえ、ホテルの現場だけでなく、広く観光産業、サービス業において、これからとくに必要とされるスキルや現場で対応できる人材とはどういうものをわかりやすく説明する。

※一覧は一例です。観光に関する授業であれば対応できますのでご相談ください。

4	担当教員	石床 渉 元一般社団法人小豆島観光協会事務局長 せとうち観光専門職短期大学 准教授
	授業テーマ	映画、テレビなどメディア作品から見た瀬戸内の魅力 ～憧れのスターが田舎にやってきた～
	授業概要	本授業では瀬戸内を舞台にした映画、テレビ、雑誌などのメディア作品をとおり、観る側の心に響くもの、地元の人が気づかない地域の誇るべきものは何かを学ぶ。昭和 29 年に全国公開し同年のキネマ旬報ベストテンで第 1 位となった映画「二十四の瞳」、令和 2 年にさぬき映画祭 2020 で上映され第 32 回東京国際映画祭で最優秀脚本賞を受賞した映画「喜劇 愛妻物語」など瀬戸内で撮影された映画などをもとに、メディア制作側と地域住民が一体となったフィルムコミッション事業が地域にもたらす波及効果を検証する。

5	担当教員	石床 渉 元一般社団法人小豆島観光協会事務局長 せとうち観光専門職短期大学 准教授
	授業テーマ	「海外から見た瀬戸内」と「瀬戸内から見た海外」 ～その違いから、瀬戸内と海外の、強みと弱み、今後の課題を考える～
	授業概要	本授業では日本人と外国人の価値観の違いを知り、立地的な観点から瀬戸内と海外を比較しながらそれぞれの強みや弱みは何かを学ぶ。 観光庁や民間リサーチ会社の統計をもとに、様々な国籍の旅行者における旅行目的やその形態を探る。「瀬戸内の観光」などを題材にグループワークにて簡単な SWOT 分析をおこない身近な観光素材に気づく時間を持つ。 海外からの仕事や旅行ほか様々な目的とした人達への対応の違いや、インバウンド客を受け入れるリスクを明確にすることによって、これからの課題を学ぶ。

6	担当教員	平 侑子 博士（観光学） せとうち観光専門職短期大学 助教
	授業テーマ	テーマパーク論 ～もし高松にディズニーランドがあったなら～
	授業概要	本授業は、東京ディズニーリゾートを題材にしながら、テーマパーク産業への理解を深めることを目的としたものである。 テーマパークと遊園地の違い、日本のテーマパークの歴史、ディズニーランドの登場によって日本の遊園地・テーマパーク等のレジャー施設が受けた影響について概説するとともに、ディズニーリゾートの特異的な点を挙げ、「もし高松にディズニーランドがあったら」をテーマにディスカッションを行う。

※一覧は一例です。観光に関する授業であれば対応できますのでご相談ください。

7	担当教員	平 侑子 博士（観光学） せとうち観光専門職短期大学 助教
	授業テーマ	レジャー・レクリエーション論 (100年前の「余暇」意識について)
	授業概要	<p>我々が旅行をするには、前提として学校や仕事から離れた自由な時間—「余暇」が必要である。盆や正月、大型連休などにレジャーへ出かけた経験がある人も多いはずである。</p> <p>日本人に「余暇」という概念が認識され始めたのが、今からおよそ100年前。日本で初めて「余暇」とは何か？「余暇」に何をしたらいいのか？を真面目に議論した人々がいた。彼らの議論（民衆娯楽論）から100年前の「余暇」意識を読み取り、当時の主要なレジャーを紹介しながら、現代の我々が考える「余暇」との違いを探っていく。</p>

8	担当教員	谷崎 友紀 博士（文学） せとうち観光専門職短期大学 助教
	授業テーマ	江戸時代の「観光」と現在の観光
	授業概要	<p>一般的に、観光現象は近代以降（明治時代以降）に始まったものとされている。しかし、それ以前の江戸時代にも既に多くの人々が旅に出ている。旅人たちは各地で名所旧跡をめぐり、名物を食べ、土産物を買うといった行動をとっており、それは観光的な要素を多分に含むものであった。</p> <p>江戸時代の旅は観光の前段階といえ、当時の旅人たちの行動や価値観は現在の観光現象に繋がっていることも多い。現在との共通点と相違点を探しながら、旅の歴史から「観光」的な要素を抽出することで、現代観光の性格を理解することができる。そこで、本講義では、このような江戸時代の伊勢参宮・京都見物・金毘羅参詣といった旅について、当時のガイドブックや浮世絵、旅人たちが書き残した旅日記などを紐解きながら追体験していく。</p>

9	担当教員	谷崎 友紀 博士（文学） せとうち観光専門職短期大学 助教
	授業テーマ	観光マップを作ろう
	授業概要	<p>現在、デジタル技術が急速に普及したことにより、誰もが簡単に地図を持ち歩くことができるようになった。デジタル地図は、カーナビやゲームなどにも活用されており、我々の生活において、非常に身近な存在となっている。</p> <p>観光においても、地図は非常に重要なアイテムである。ガイドブックにもホテルにも観光地の駅前にも、観光案内の地図が置かれている。しかし、場所によっては地図がないこともあれば、わかりにくい地図や不親切な地図が置いてあることもある。そこで、この授業では、地図作成のツールを用いて、観光案内地図を作成する体験をおこなう。地図の基本的な作成方法を知り、今後自分が作成したい地域の地図を作れるようになることを目的とする。</p>

※一覧は一例です。観光に関する授業であれば対応できますのでご相談ください。